



『関西企業ヒストリア』

～その強さの秘密・転換点を探る～

創業から70年以上の歴史を重ねる会員企業を取り上げ、時代の荒波を乗り越えて、長い期間にわたって生き残り成長してきた強さの秘密、その歴史の転換点を探ります。

第6回 創業 1912年（明治45年）

株式会社 ヒラカワ

舟くぎ作りからのスタート 製缶業を経てボイラメーカーへ

1912年 ▶ 日本が急速に工業化の道へ進んでいく1912年、平川種吉が大阪府西成郡鷺洲村大仁（現：大阪市北区大淀北）に「平川鉄工所」を創業しました。

「他人に迷惑をかけてはならない。常に得意先、需要先の立場に立ってその利便・利益を考え、信頼に背かないこと」という信条のもと、当時35歳の種吉は、舟くぎ作りから事業を始めました。1916年に製缶業を開始し、1922年にはランカシャボイラを製造、これが同社のボイラ製造のはじまりでした。



初代 平川種吉

ランカシャボイラは、水缶内に2本の炉筒があるものを指し、イギリスのランカシャー地方で広く使われていたためこの名が使われるようになりました。

1933年には機関車型（ケワニー）ボイラの製作も開始しました。



A型ケワニー

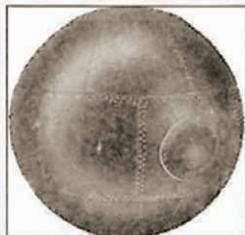
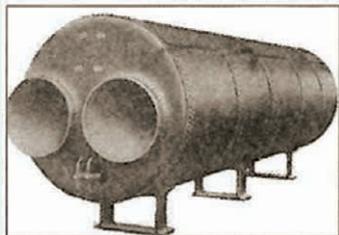


A型上向通風戻煙式
汽閥車型ボイラ

平川水管式ボイラを考案

1942年 ▶ 1942年、平川水管式ボイラを考案設計し、常用圧力22kg/cm² (2.156MPa)のものをダイハツ工業へ納入しました。

1947年には法人組織に改組、株式会社平川鉄工所となりました。社長には二代目の平川久一が就任し、進駐軍向けケワニー、ランカシャボイラの製造から事業を始めました。



左上：ディッシュエンド・ランカシャ型汽缶

右上：蒸解缶（地球がま）

左下：不銹鋼製反応機（内部）と蒸釜機



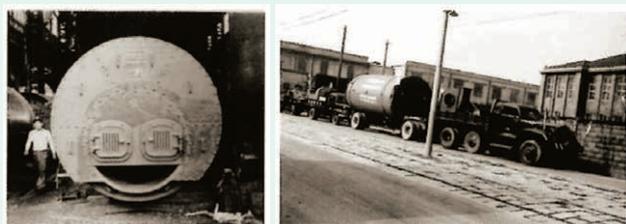
平川鉄工所 大阪本社

MPボイラ誕生 自社ブランドの確立

1953年 ▶ 1953年、日本最初の炉筒煙管ボイラ「MPボイラ100型」を開発しました。性能は、3パス（パス＝ガスの通る片道）、ボイラ効率85%でした。記念すべき1号機は東京の伊勢丹百貨店へ納入されました。「MP」とは燃焼ガスが多く通過するという意味の「Multi Passaged」の頭文字を取ったものです。このMPボイラの誕生がきっかけで、ヒラカワの高い技術力が世に知られることになりました。



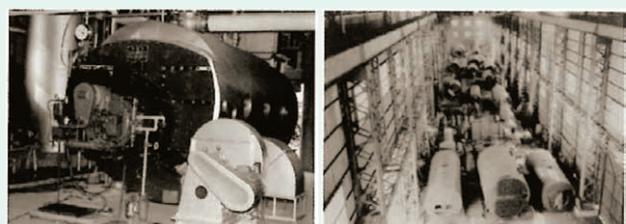
1955年に、MPボイラ100型にさらに改良を加えたMPボイラ200型/300型シリーズを開発。重油ボイラ設置制限に対する規制法により、石灰・重油に対応し、3パス200型は自然通風方式、300型は誘引通風方式で特許を取得しました。



MP310 (石灰) MPボイラ300型 輸送風景

1960年にはMPボイラ500型シリーズを開発。日本最初の加圧燃焼方式で、ボイラ効率85%以上を達成しました。伝熱面積50㎡以下は重油規制法から除外され、MP300と同じ伝熱面積で蒸発量は倍以上という性能でした。

これら不断の努力により、MPボイラシリーズは本格化しました。



MPボイラ500型 大阪第一工場

新たな製造拠点の設立

1962年 ▶ 1962年4月1日、創業50周年を迎え、最新鋭のボイラ専用ライン生産が可能な滋賀工場（現・滋賀事業所）を滋賀県野洲町（現・野洲市）に開設しました。



当時、ボイラメーカーでバーナを設計・製作しているのは同社だけで、ボイラ・バーナユニット生産体制を確立しました。また、二代目社長の平川久一が大形連通管を有する炉筒煙管ボイラ発明の功により紫綬褒章を受章する荣誉に輝きました。



滋賀工場



紫綬褒章の記

1963年、MP-3Tバーナを高負荷燃焼ボイラバーナユニットとして自社開発し、特許を取得しました。このMP-3Tバーナは、温度(Temperature)、時間(Time)、攪拌(Turbulence)の“燃焼の3T法則”を満たす高機能設計として知られました。

1965年にMPボイラUR型シリーズを開発すると、MP UR50」型を3基、皇居宮殿に納入するという荣誉に浴しました。1968年には、水管式ボイラWTP型シリーズを開発。パッケージ水管ボイラとして換算蒸発量25t/hまで搬送可能であり、ボイラ効率87%を達成しました。時を同じくして、国内初の戻り燃焼方式であるMPボイラ800型シリーズの開発にも取り組み、ボイラ効率88～90%かつ低NOxを実現した製品を完成させました。

社是の制定で目標の共有

1972年▶ 1972年には創業60周年、法人改組25周年、滋賀工場開設10周年という節目を迎え、社是を制定しました。

1992年には創業80周年を機に、社名を「株式会社ヒラカワイダム」に改称しました。

社 是
信 頼 さ れ る 会 社
信 頼 さ れ る 人 間
信 頼 さ れ る 製 品

信頼とは、日々の私たちの心遣いと
積み重ねが自然に生み出すものです。

二代目社長 平川 久一

イラッチ」が誕生しました。

ボイラッチの姿は、足の部分が火になっていて、お腹で水を沸かし、左手から温水を、右手から蒸気を出すボイラロボットのイメージです。



ボイラッチ

迎えた創業100周年

2012年▶ 2012年4月1日、創業100周年を機に、社名を「株式会社ヒラカワ」に改称しました。

100周年記念ロゴは、これまでの100年で築き上げた信頼・技術力・品質を次の100年につなげるループとして表

しました。真紅の赤は、全社員の変わらぬ結束力と情熱を表現しています。これまで以上に親しみやすく呼びやすい社名には、お客様との信頼関係をさらに発展させたいという思いを込め、コーポレートロゴには伝統を大切に、力強く、安定的なイメージを持たせました。



100周年記念ロゴ

MP 株式会社ヒラカワ

Boiler company since 1912

コーポレートロゴ

「これまで培ったヒラカワの技術開発力を地球の未来のために。」環境を考える取り組みが活発に行われる同社では、温暖化防止対策のひとつとして、間伐採からつくり出されるチップやペレットなどの木質バイオマス燃料の活用を積極的に行っています。その他にも、環境への影響を考慮した製品づくりや、エコをテーマとした全国のイベントに出展するなど、地球の未来を考えたさまざまな取り組みが行われています。

同社は今後も、創業時からの「ボイラを通じて資源のない我が国の発展に貢献したい」という志や、先人への感謝を忘れず、これからもサステナブル社会にふさわしい、低NOx、低CO2、省エネルギーな製品づくりを追求し、次の100年に向けた革新への道を歩み続けます。

株式会社 ヒラカワ

本社所在地：大阪府大阪市北区大淀北1-9-5

従業員数：303名 資本金：9,000万円

事業内容：ボイラ・周辺機器の製造・販売、メンテナンス



**ポイント
転換点**

B-TECを開設 ソリューション型ボイラメーカーへ

2004年▶ 2004年、滋賀事業所内に日本初のボイラデモセンター「ボイラ技術開発センター(B-TEC)」を開設しました。ボイラ技術開発に特化した日本初の本格的な実験研究センターで、お客様の目の前で実際にテストを行い、製品の実用化に向けてボイラの性能や効果を確認できる施設です。資源循環型社会に対応するため、あらゆる燃料を燃やせる燃焼実験炉を設置しているほか、過熱蒸気、高圧蒸気、飽和蒸気、低圧蒸気などさまざまな蒸気・温水の特長を生かした実証実験装置、分析室、計測室、セミナー室など多彩な施設があります。



ボイラ技術開発センター(B-TEC)

同社ではお客様のニーズや課題を徹底的に知りつくすことを最重要とし、営業部門スタッフがお客様と常にコミュニケーションを取り、ソリューションの一環としてボイラの用途やコスト削減などあらゆる側面から分析・診断する「省エネ診断」を実施しています。省エネにこだわる同社の、未来を見据えた取り組みです。

B-TECが竣工したこの年、同社の活動をより多くの方に理解してもらうことを目的に、イメージキャラクター「ボ